

# 環境制御資材の活用事例 「恵爽パワーW」でワクモ対策

鶏の外部寄生虫であるワクモが農場にもたらす被害は無視できない。今回は、珪藻土を使った環境制御資材（「恵爽パワーW」株式会社ユーディー）を野外農場で使用した試験結果を紹介したい。

## ワクモ対策に向けて

ワクモによる被害は、ワクモの排泄物や吸血した血液が付着した汚卵の発生、吸血による産卵率低下・貧血・死亡、衛生費・作業量の増加、管理者への一時的規制による不快感やアレルギー被害が挙げられる。養鶏場ではワクモ防除のため殺虫剤を使用しているが、有効な薬剤の選択、散布回数に悩むという声もあり、殺虫剤以外でワクモ対策の一助となるような資材の開発が喫緊の課題となっている。

## 「恵爽パワーW」を使った長靴へのはじり防止効果

鶏舎内の通路を往復する際に、「恵爽パワーW」を踏込槽に入れ長靴に付着させた場合（写真1）と、使用しない場合の長靴へはじり上がるワクモの数を比較した。

その結果、付着させた長靴では平均1匹（ワクモが観察されない長靴もあった）だったが、不使用の長靴には平均約830匹のワクモが観察された（図1）。また、約1週間後に再度農場を訪問し、前回試験に用いた後に約1週間鶏舎内に放置した踏込槽を使用し、同様の試験を行った。結果は、前回と同じく恵爽パワーWを付着させた長靴へのはじり上がりは平均1匹であった。

この結果には、試験に立ち会っていただいたベテランの農場長も感心された。更に、恵爽パワーWを長靴に付着させ通路を往復

した際、衣服へのワクモははじり上がりも確認されなかった事から、足元から衣服へのワクモははじりも低減する事が期待される。

家畜伝染病予防法の飼養衛生管理基準改正にもない、長靴は鶏舎ごとの履き替えが義務づけられているが、衣服を鶏舎ごとに交換している農場は少ない。

鶏舎管理を終えた時点で、エアークンプレッサーを用い、衣服などからワクモを取り去るために体中に吹き付けをしている農場は多いと思うが、ワクモを落とすのはほぼ不可能である。

今回のような方法で長靴、更には衣服へのワクモのはじり上がりを阻止する事により、他鶏舎に広がる可能性は低くなると考えられる。

## ピットからのワクモ侵入防止効果

鶏糞はワクモが好んで生息する場所であり、各鶏舎を横断し鶏糞を運んでいるスクレーパーや、出入口となる鶏糞搬出口のピットは、鶏舎へのワクモの主な侵入経路の1つである。舎内の清掃を万全にしているも、ワクモはスクレーパーによって運ばれ、ピットからはじり上がりつつある事がある。しかしながら、殺虫剤など既存の手段で常時対策をする事は難しい箇所でもある。

そこで侵入経路となるピット周辺に恵爽パワーWを散布し、侵入防止効果を確認した。散布した周辺で採取できたワクモ数は131匹に対し、散布しなかったピット周辺では採取できたワクモ数が平均

811匹と明らかに差が見られた（図2）。

## ケージ列間のワクモ移動抑制効果

同一鶏舎に複数ロットが飼養されている場合、空舎期間中の洗浄や殺虫剤散布が不十分な箇所などから通路や床を介してワクモが移動し、鶏舎に蔓延する（写真2）。

セミウインドウレスの鶏舎の通路に、恵爽パワーWを薄く散布（1㎡あたり約100g程度）した通路と無散布の通路を設定して1週間後、ケージ台脚に設置した木製のワクモトラップ（写真3）を用いて通路からケージに登ってくるワクモ数を計測した。

結果は、無散布通路のトラップでは平均6132匹に対して、散布した通路のトラップ内のワクモ数は平均2512匹と明らかに少ない値を示した（図3）。このことから、他ケージ列へのワクモの移動を抑制できる事が推察された。

## 実際に指導を

実施した採卵鶏農場では、同一鶏舎内に2ロットの鶏群が飼養されており、1ロットを廃鶏出荷した後も、残りの1ロットにワクモが残ってしまう状況だった。対策とし



写真1. 恵爽パワーWを入れた踏込槽



写真2. ケージに付着したワクモ



写真3. ケージ台脚に取りつけたワクモトラップ

図1. セミウインドウレス鶏舎内で長靴に付着した平均ワクモ数

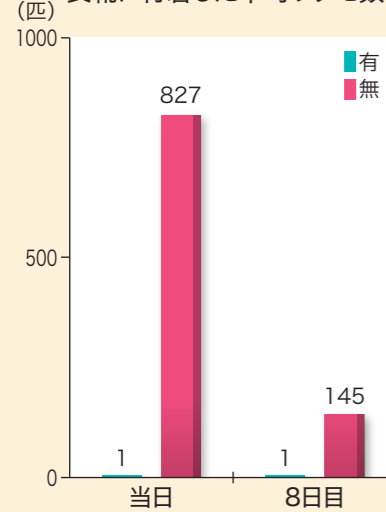


図2. ピット周辺の平均ワクモ数

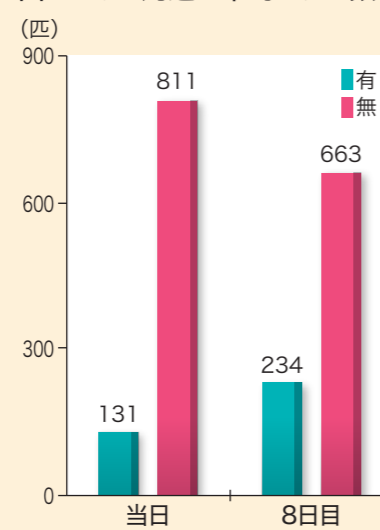


図3. ケージ台脚に取りつけたトラップ内の平均ワクモ数

